

富山県立山・室堂周辺で「登山者位置検知システム」の実証試験を実施

総務省北陸総合通信局（局長 吉武 久（よしたけ ひさし））は、平成28年10月26日（水）に、富山県立山・室堂周辺の携帯電話不感エリアにおいて、登山者位置検知システムの実環境における有用性を検証するための実証試験を行いました。

実証試験は、平成28年9月16日（金）に行われた「登山者位置検知システムの利用モデル評価会」（以下、「評価会」という。）第1回会合において提案・確認された試験項目に基づいて行われ、「評価会」の構成員など14名が参加しました。

登山者端末の位置データの取得は、立山室堂山荘を収集拠点として、立山室堂山荘、一之越山荘、雄山神社付近の3か所に捜索者用の検知者端末を設置し、東一之越及び大汝山方向へ登山者端末を移動させ、1分ごとに行いました。あわせて、（1）登山者のボタン操作で登山者端末からの救助要請の信号が検知者端末で受信できるか、（2）検知者端末からの遠隔操作で登山者端末の位置情報を強制的に取得できるか、について試験を行い、おおむね良好な結果が得られました。

北陸総合通信局では、1月頃に次回の「評価会」を開催し、整理・分析した実証試験の結果を報告、これについて構成員から意見を伺うこととしています。



ディスプレイ

登山者端末のディスプレイに検知者端末からの信号を受信したことを表示



立山室堂山荘横に設置した検知者端末用アンテナ



登山者端末からの位置情報の受信履歴（立山室堂山荘から大汝山方向へ移動）